高等部道徳科学習指導案 『マラソン大会に向けて』

**１　主題名**　自分らしさを伸ばす　　A-(３）　向上心　個性の伸長

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・自分らしさを伸ばす

・自分の長所だけでなく短所についても気付き、特徴を多面的に捉えることができる。

・自分の気付いた長所を維持し、積極的に伸ばそうとする態度を育てることができる。

（2）教材　　マラソン大会に向けて　（P２０-２３）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| A　主として自分自身に関すること　　（３）　向上心　個性の伸長自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

「個性を伸ばす」ということは、自分の良さを生かし、更にそれをよりよい方向に伸ばし、自分らしさを発揮し、調和を取りながら自己を形成していくことである。また生活経験を積む中で、長所も短所も自分の特徴として捉え、更に伸ばしたり、改めたり、絶えず良い方向に発揮し続けることが大切である。しかし、実際の生活の中では、諦めそうになったり、短所に向かい合うことを避けたりするなど、心の弱さを乗り越えようとする強い意思を持ちづらかったり、自分の基準で他者と比較しすぎてしまい否定的に考えてしまったりすることがある。

学校生活など、様々な体験を通して自分の特徴を知り、自己を肯定的に捉えるとともに、優れている面などの発見に努めていけるようにする。また、自分自身の良さや個性を見出し、絶えず伸ばし続ける強い意志や態度を育てていきたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちや考えを言葉で表現することができる生徒、言葉やイラストから選択して表現することが

できる生徒、表情やジェスチャー、体の一部の動きで感情を表出することができる生徒を対象とする。

語彙が少ない生徒には、表情やジェスチャーなどを用い、考えるよう促す。また、気持ちの表現が難しい

生徒は、表情イラストを用いて、自分の気持ちに近いものを選択できるようにする。

日常の学校生活においては、他教科等や自立活動と関連しながら、体験的な学習を通して、自己の特徴や長所、短所などについて気付くとともに、課題を通して自己と対峙して考える機会を設ける。

協働的な学習の中においても、他の生徒との関わりを通して、自分らしさを発揮している場面に気付いたり、多様な個性や生き方に触れながら自己の特徴を生かす方法について考えられるようにする。

家庭生活や地域生活でも、互いの良さを認め合えるとともに、互いの長所を生かして協力し合える機会を設けるなど、家庭や地域との連携を深めておく。

（３）教材について【教材観】

保健体育の授業の中で、自分の特徴をよい方向に発揮し続けることや、課題を解決していくことが長所になることなどを理解し、道徳の授業を通して、諦めそうになったり、短所を改めることを面倒に感じたりするなどの、心の弱さなどを乗り越えていく強い意志について、学ぶことができる教材である。

挿絵でも、登場人物の表情や動きなど、心の葛藤がイラストで示されている。

主人公の大地さんの心の葛藤や変容などの気持ちを推測する学習を行ってから、自らの特徴を知ることで長所を伸ばすことに繋がることや、継続して伸ばそうとし続ける強い意志を持つことについて考えるとともに、他者との交流等を通して、多様な個性や生き方に触れることで、自分の長所を伸ばす方向について学校生活や学校行事等の体験を通して、振り返って考えることができる教材となっている。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　　　登場人物イラスト、実際のマラソン大会時の動画や画像、ワークシート、ミニホワイトボード（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点☆評価の観点 |
| 導入 |  | １　これまでの学校生活や家庭生活、余暇などで、一番頑張ってきたことや努力してきたことを思い出したり、考えたりする。・頑張ったことや努力したことの理由、その時の気持ちを振り返って考える。 | ・ある。・分からない。・覚えていない。・友達からの声掛けが嬉しかった。・先生からの励ましがあった。・きつかったけど、頑張ろうと思った。 | ・これまでの経験を振り返る。これまでの学習の記録や画像を用いて、学校生活や家庭生活内での場面を思い出す。・どんな時に、どんな思いで取り組んだのか、発表する。・相手からの具体的な言葉かけなどを尋ね、取り上げ、全員で共有する。☆努力や強い意志をもって取り組むことや心の葛藤は様々な場面で向き合うことがあることについて理解する。（思・判・表）・生徒の発言を板書して残しておく。 |
| 展開展開 |  | 2　教材「マラソン大会に向けて」を読み、本文の内容や情景等を思い浮かべる。〇大地さんの走ることに対する気持ちなどについて考える。・本文P２０-２１を見て、大地さんの走っているときの心の葛藤について、自分の考えを発表する。〇走るのが一番遅かったけれども、タイムが上がった大地さんは、この結果に満足しているだろうか。・本文を見ながら、大地さんの言葉や思いから、心の葛藤に触れながら、本文P２２の欄に自分の考えを記入する。〇遥輝さんや先生の言葉に触れ、大地さんはどんな気持ちになったでしょうか？・役割演技を行い、遥輝さんや先生の発言を聞いて感じた気持ちや考えを友達と意見交換をする。〇今日の練習が終わり、大地さんはマラソン大会に向けてどんな気持ちになっているだろうか。・自分の経験も踏まえながら考え、本文P２２に大地さんの立場になり、気持ちや考えを記入する・書いたことを発表する。３　苦手だけどチャレンジしてみたいこと、得意なことでもっと力を伸ばしたいことについて考える。・日常生活や学校生活を振り返り、具体場面などを考える。・書いた内容を発表する。 | ・満足している。・満足していない。・微妙な気持ち。・悔しい気持ち。・驚いた。・嬉しかった。・大会は本気で頑張ろう。・もっと練習しよう。・練習みたいに頑張れるだろうか。・友達はどんな気持ちで取り組むだろうか。・何を書こうかな。・どんなことがあったかな。・チャレンジしてみたいこと、自分の得意なことは何かな。 | ・範読時には、登場人物の心の葛藤が分かるように、声の抑揚をつけるようにする。・語彙が難しい生徒には、表情やジェスチャーなどと併せた動きをしながら考えられるようにする。課題　大地さんが諦めずに最後まで走り切った時の気持ちを考えよう。・教師とやりとりしながら、大地さんの気持ちや考えなど、キーワードにして提示し、焦点化して考えられるようにする。・発表した気持ちや考えは、黒板に板書して、全員で共有できるようにする。・本文から大地さんの気持ちに共感したり、感じたりした場面の文章をミニホワイトボードに書き出すなどして、意見を見合いながら発表できるようにする。・気持ちの表現が難しい生徒は、教師とやりとりしたり、表情イラストを用いたりして、自分の気持ちに近いものを考えて書けるようにする。・役割演技後に、大地さんや遥輝さん、先生の立場での気持ちを発表し、板書したことを参考にして考えるように伝える。・友達と意見交換をする際に、登場人物の言葉に込められた気持ちにも思いを馳せるように伝える。・友達との意見交換時の板書を参考にしたり、自分のマラソン練習の経験を通して考えたりするように伝える。☆自分の考えを書き、発表できたか。（知・技）・日常生活や家庭生活、各教科等や余暇などの場面をいくつか提示し、自分が書きやすいものを選択して考えることができるようにする。・発表する際は、教師とやりとりしながら、考えた理由についても尋ねていくようにする。 |
| 終末 |  | ５　深めたことについて、共有し合う。・授業を振り返り、自分の生活やワークシートと関係させながら考える。 | ・自分の生活の中でどのように活かしていくか。 | ・自分自身や仲間との高め合いの良さや大切さを、学校生活や家庭生活でどのように生かしていけるかを考えるように伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

練習中の生徒が走る前、走っているとき、走り終えた後の画像を提示しながら、教師から見た努力している姿や諦めずに最後まで取り組む姿などについて認めたり、誉めたり、励ましたりする。これまで苦手だったことや得意なことに対して手順や方法を学び、粘り強く、丁寧に取り組み、スモールステップでできるようになったことや、得意なことをもっと取り組むには自分と対峙しながら考えることの大切さについて、教師自身の体験を踏まえて話す。

日常生活や家庭生活において、自分の姿を客観視して、考えるとともに、日頃の生徒相互の信頼関係を基盤としてチャレンジしていることや得意なこと、長所などを互いに指摘し合い、高め合う人間関係をつくっていくことを考えながら、自分らしさを伸ばして欲しい。